

国内電信級陸上特殊無線技士試験問題

(注) 解答は、答えとして正しいと判断したものを一つだけ選び、答案用紙の答欄に正しく記入(マーク)すること。

法 規 12問 30分

法 規 (1)

- [1] 無線局の予備免許の際に総務大臣から指定される事項は、次のうちのどれか。
1. 電波の型式及び周波数
 2. 免許の有効期間
 3. 通信の相手方及び通信事項
 4. 無線局の目的
- [2] 無線従事者がその免許証の訂正を受けなければならないのは、どの場合か。正しいものを次のうちから選べ。
1. 住所に変更を生じたとき。
 2. 本籍地に変更を生じたとき。
 3. 他の無線従事者の資格を取得したとき。
 4. 氏名に変更を生じたとき。
- [3] 免許人(包括免許人を除く。)が正当な理由がないのに無線局の運用を引き続き何箇月以上休止したときにその免許を取り消されることがあるか。正しいものを次のうちから選べ。
1. 1箇月
 2. 3箇月
 3. 6箇月
 4. 1年
- [4] 無線従事者がその免許を取り消されることがある場合は、次のうちのどれか。
1. 免許証を失ったとき。
 2. 日本の国籍を有しない者となったとき。
 3. 電波法若しくは電波法に基づく命令又はこれらに基づく処分に違反したとき。
 4. 引き続き6箇月以上無線設備の操作を行わなかったとき。
- [5] 無線局の免許がその効力を失ったとき、免許人であった者がその免許状についてとらなければならない措置は、次のうちのどれか。
1. 遅滞なく廃棄しなければならない。
 2. 1箇月以内に返納しなければならない。
 3. 3箇月以内に返納しなければならない。
 4. 2年間保管しなければならない。
- [6] 固定局の免許状は、掲示を困難とする場合を除き、どの箇所に掲げておかなければならないか。正しいものを次のうちから選べ。
1. 主たる送信装置のある場所の見やすい箇所
 2. 受信装置のある場所の見やすい箇所
 3. 通信室内の見やすい箇所
 4. 無線局のある事務所の見やすい箇所

国内電信級陸上特殊無線技士試験問題

法 規 (2)

〔7〕 無線局が、自局に対する呼出しであることが確実にない呼出しを受信したときは、どうしなければならないか。正しいものを次のうちから選べ。

1. その呼出しが反復され、他のいずれの無線局も応答しないときは直ちに応答する。
2. その呼出しが反復され、かつ、自局に対する呼出しであることが確実に判明するまで応答しない。
3. その呼出しが数回反復されるまで応答しない。
4. 直ちに応答し、自局に対する呼出しであることを確かめる。

〔8〕 無線電信通信において、通報を確実に受信したときに送信することになっている略符号は、次のうちのどれか。

- | | |
|--------------|-------|
| 1. <u>ラタ</u> | 2. TU |
| 3. VA | 4. R |

〔9〕 無線電信通信において、呼出しに使用した電波と同一の電波により通報を送信する場合、順次送信する事項のうち省略することができるのは、次のうちのどれか。

- | | |
|-----------------|----|
| 1. 相手局の呼出符号 | 1回 |
| 2. (1) 相手局の呼出符号 | 1回 |
| (2) DE | 1回 |
| 3. (1) DE | 1回 |
| (2) 自局の呼出符号 | 1回 |
| 4. (1) 相手局の呼出符号 | 1回 |
| (2) DE | 1回 |
| (3) 自局の呼出符号 | 1回 |

〔10〕 無線局運用規則の規定に照らし、一般通信方法における無線通信の原則として定める事項に該当しないものは、次のうちのどれか。

1. 無線通信は、正確に行うものとし、通信上の誤りを知ったときは、直ちに訂正しなければならない。
2. 必要のない無線通信は、これを行ってはならない。
3. 無線通信は、迅速に行うものとし、できる限り短時間に終わるようにしなければならない。
4. 無線通信に使用する用語は、できる限り簡潔でなければならない。

〔11〕 無線局において、「OSO」を前置した呼出しを受信した場合は、応答する場合を除き、どうしなければならないか。正しいものを次のうちから選べ。

1. 混信を与えるおそれのある電波の発射を停止して傍受する。
2. 直ちに付近の無線局に通報する。
3. 直ちに非常災害対策本部に通知する。
4. すべての電波の発射を停止する。

〔12〕 無線局は、自局の呼出しが他の既に行われている通信に混信を与える旨の通知を受けたときは、どうしなければならないか。正しいものを次のうちから選べ。

1. 空中線電力をなるべく小さくして注意しながら呼出しを行う。
2. 中止の要請があるまで呼出しを反復する。
3. 直ちにその呼出しを中止する。
4. 混信の度合いが強いときに限り、直ちにその呼出しを中止する。